

理事長メッセージ

2008年度は国内外で社会・政治・経済あらゆる面で激動の年となりましたが、国際社会がさまざまな問題に直面すればするほど、人々が国境を越えて相互に理解を深め連携を強めることが益々必要となり、国際文化交流の役割は重要となっております。そのなかでジャパンファウンデーションは独立行政法人として引き続き効率的な業務運営にむけて最大限の努力をしつつ、効果的な国際文化交流事業を着実に実行してまいりました。

海外で日本語を学ぶ人の数は年々増えており、2006年の調査では300万人近くになっています★。日本語教育に長年の実績があるジャパンファウンデーションはこの分野をリードしていくことが求められているなかで、日本語教育・学習・評価の枠組みとして「JF日本語教育スタンダード」の開発を進め、まず試行版を発表しました。さらに世界中の日本語教育機関の核となる拠点をむすぶ「JFにほんごネットワーク(通称さくらネットワーク)」を立ち上げ、各国や地域のニーズに応え、支援するための基盤づくりをしました。一方、2008年10月には「試験センター」を設立し、日本語能力試験の内容の改定と年複数回実施に向けた体制の強化を図りました。2008年の受験者は約56万人に達しています。

知的交流は、諸問題に対して日本と外国が連携して取り組むため、パートナーシップを築くひとつの重要な手段です。2008年度は中国・四川大地震発生後、高校生を含むボランティア・チーム、防災専門家の派遣、中国政府関係者の招へいを含む復興支援の為の交流事業を行いました。アジア諸国からは将来さまざまな分野でリーダーになると目される若手を招き、「文化を生かしたまちづくり」などをテーマに日本の現状視察や関係者との意見交換を行いました。

海外における日本の文化芸術への関心は幅広くなってきており、各地域の事情に応じて、伝統芸術から現代アート、アニメや食文化までさまざまなかたちで紹介しています。2008年度はさらに、紛争や自然災害のあとの復興など、さまざまな社会的課題の解決を文化を通じて促進するという新たな視点から、文化と平和構築についても取り組み、また今後の可能性について検討を深めてきています。

時代の要請に応える事業を展開するうえで、業務運営の効率化は極めて重要です。2008年度は本部移転などにより管理的経費の削減などの具体的目標を着実に達成しました。また組織の柔軟性を高め、他団体や企業との協力・連携の促進にも努力し、限られたリソースでの効果的な事業の実施にも力を注ぎました。

文化の持つ力に大きな関心が注がれる今日、改革の手を緩めることなく時代の必要とする事業を積極的かつ効率的に展開してまいります。ジャパンファウンデーションに対する一層のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

(2009年9月)

★——2007年ジャパンファウンデーション発行
『海外の日本語教育の現状——日本語教育機関調査・2006年』による



国際交流基金(ジャパンファウンデーション)
理事長 小倉和夫